2022.12／No.1065
発行／熊本県長洲町　編集／まちづくり課
URL http://www.town.nagasu.lg.jp/
〒869-0198　熊本県玉名郡長洲町大字長洲2766
☎0968（78）3111
■印刷／コロニー印刷
※この広報紙は地域環境にやさしい植物油型インキを使用しています。
UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。

Focus Vol.75

長洲町でキラリ輝く人たち

「第40回記念 くらしの工芸展2022」で県知事賞を受賞

県知事賞を受賞した「藁灰釉刷毛目皿組」

小代焼「一先窯」２代目

山口（やまぐち）　友一（ともかず）さん

（葛輪区　37歳）

葛藤を超え、陶芸の道へ

昭和60年、友一さんの父・耕三さんが、長洲町内で小代焼「一先窯」を開窯する。友一さんは、幼少期の頃から、作陶する父の後ろ姿を眺めながら育った。高校も、有田焼を学べる学校を選択した。

二十歳をすぎた頃、自身の進む道を模索した。様々な葛藤の末、当時は窯元を継がず、映像を制作する仕事に携わった。しかし、陶芸と同じ「つくる」仕事ではあったが、どこかで自身が望むものづくりではないと感じていた。そんな中、陶芸はものを作っている実感が強かったことを思い出す。そして徐々に、陶芸家の道へと進む決意が固まっていった。

小代焼の魅力を再認識

約４００年の伝統を誇る小代焼。当時、自由に自己表現をしたいと考えていた友一さんは、小代焼の重厚感や、伝統ならではの決まり事から、他の焼き物を作ってみたいと感じていた。そこで、全国で様々な現代的な陶芸を見て回った。

道中、東京の民芸館で、偶然にも小代焼の古壺を見つけた。その壺は何故か、とても魅力的に見えた。地元の熊本で見る小代焼と、東京で現代的な陶芸に囲まれながら見る小代焼は、違って見えることに気づいた。そして、小代焼の魅力を改めて認識し、制作に取り組むこととなる。

独自の技法で県知事賞を受賞

友一さんが目指す作品は、「伝統と現代を併せ持つ器」であり、常に新しいものを追求している。「一先窯」という名称は、近隣の一先宮から拝命したものであるが、「一つ先を目指す」という先代からの思いも込められている。

しかし、新たな試みには常に不安が付きまとうという。試行錯誤の末、刷毛の模様と数種類の釉薬を融合した独自の技法「小代藁灰釉 翠（しょうだいわらばいゆうすい）」を編み出す。その技術は、４００年の小代焼の伝統と融合し、高い次元へと昇華された。そして、「第40回記念　くらしの工芸展２０２２」で見事、県知事賞を受賞した。この受賞は、不安の中で挑戦した新たな試みが、間違いではなかったと確信するきっかけになり、気持ちを後押ししてくれた。

これからの展望

友一さんは今後、小代焼を関西、関東、さらには海外に発表していきたいと考えている。そして作風が、「単に商品として売れるもの」に傾かないよう、一つ一つの器に思いを込めながら制作していくことを、テーマとして掲げている。

また、一先窯では、現在リノベーション中の工房が来春完成予定である。窯元は敷居が高いと思われがちだが、長洲町内の人に、気軽に立ち寄ってもらうことにより、小代焼の良さを知り、身近なものとして使ってもらいたいと願っている。